

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	東海支部	(2) 記載者氏名:	堀 文昭	会員番号:	13301	事務局整理記入欄	東海-14
分水嶺区分	E655権兵衛峠~1890地点			(3) 山行日:	2004年	10月	15日 (4) 天候 快晴

(5) 参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

中世古直子	6730						
伊藤 武	13962						
南川 陸夫	13433						
堀 文昭	13301						
計				4名			
計				0名			

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	南北一直線に連なる稜線、以前は登山道が通じていたが、今は完全にササヤに没している。												
アプローチ:	東海市・知多市・名古屋市・春日井市~中央道伊那IC~権兵衛峠												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	権兵衛峠(車道)	宮ノ越	137	51	25	35	52	30	1,540		9:30		
分水嶺到達点E655	同上	宮ノ越											
	南沢山	宮ノ越	137	50	49	35	51	33	1,898	12:00	12:35	A1/B3	
	幕营地	宮ノ越	137	50	47	35	50	21	1,890	14:45		B-3	
分水嶺離別点													
歩行終了点	同上												
総歩行時間(休憩時間を除く):												4時間45分	

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
					当該区間に三角点はない

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

権兵衛峠(車道): 駐車場、トイレ
権兵衛峠(旧道): 多数の記念碑、説明板、東屋、水場などがある。以上のものは地形図に記載なし。
上記二地点の間に送電鉄塔1基
峠付近以外に人工物は一切ない、

(9) 水および植生に関連した特記事項

権兵衛峠の南約1kmにカラマツの巨樹(直径1.3m、高さ33m、樹齢250年)がある、ここまでは山道あり。
稜線沿いの樹木は針広入り混じり、概して貧弱である。このためササが猛烈に繁茂して行くてを遮る。
水については2ページ目に記入

(10) その他の特記事項

権兵衛峠から南1km以内の箇所にはクマの足跡、糞、ドングリの枝を折った跡が多く、スリルを味わいつつ通過した。
分水嶺上で展望が得られるのは限られた箇所のみである。幕营地近くでは南アルプスの全貌が望め、伊那市の夜景が綺麗だった。
疎林が殆どであるとはいえ、GPS電波を受信するには上空の開けた場所を探す必要がある。

(11) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
権兵衛峠の園地に建つ分水嶺の碑、後は古畑権兵衛の碑

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。

権兵衛峠

信濃路自然歩道が越える、と共に

木曾山脈を横断する数少ない自動車通行可能な峠である。但し小型車限定の狭くうねうねと長い林道である。さかのぼれば元禄年間、牛馬の通行が可能のように改修されて以来、その工事に尽力した人、権兵衛の名で親しまれているが、それ以前にも別の峠名が文献に見られ長い歴史を有する峠である。

現在この直下に国道361号線のトンネルが掘削中であり、これが完成すればこのあたりの交通体系は様変わりするだろう。

木曾山用水

分水嶺を越える灌漑用水の供給が明治6年に開始されている。奈良井川最上流部の水を権兵衛峠を經由し、天竜川支流小沢川へ落とすもので、稜線の西側を等高線沿いに走る道路記号はその水路の名残と思われる。昭和43年、この水路に代ってトンネルが設けられたため、現在は用水の有様を伺い知ることはできない。(鉢盛峠W015にも同様の事例がある)



権兵衛峠の園地に建つ分水嶺の碑、後は古畑権兵衛の碑